

研究主題について

学ぶ楽しさと充実感を味わう算数教育

- ・ 単位時間のねらいを明確にした単元のあり方
- ・ ねらいにせまる単位時間のあり方
～基礎・基本が生きる算数活動のあり方～

学ぶ楽しさ、充実感とは、あることが分かった、できた、解けた、見つけた、作った、不思議だと思った、きれいだと感じた、便利さに気づいた時や、算数を学んでいた、何かに夢中に取り組んでいるときに感じると考える。学ぶ楽しさや充実感を味わえるように次のことを考える。

研究重点 単位時間のねらいを明確にした単元のあり方

単位時間ごとの算数的活動や子どもからだされる考えを単元指導計画に位置づけることで、単元全体の見通しを持ち、子どもが、算数で楽しさや充実感が味わえるように支援する。

また、単元の評価規準を達成できるように、単位時間ごとの4つの観点や、4つの観点の中で特にどんな力をつけたいのか明らかにする。

研究重点 ねらいにせまる単位時間のあり方～基礎・基本が生きる算数活動のあり方～

基礎・基本とは、知識や技能だけではなく、数学的な考え方も含まれると考える。つまり、後の学習のもとになるものや、後の学習の考えを深めていくものだと考える。

既習事項、図や数直線などを用いて考える算数的活動を多くとり、夢中で考え、問題が解けるようになる充実感や、算数的活動から、「なるほど」といった発見をしたり、問題を解いたりする楽しさを味わえるように、考えるための手段を多く与えたり、子どもの考えを認め価値付けたりする。

本時では、図や数直線を用いたり、単位換算をしたり、(小数)×(整数)の計算方法と同じように0.1を単位として計算すると、整数同士の計算に関連づけて考えることができると気づけるように、個人追究の場で考えるための手段を多く与えたり、どうしたらよいのか分からない児童には、よりどころとなる考えを提示していく。本時での基礎・基本の1つだと考える、わられる数をより細かな単位にして考えるということは、これからのわり算の筆算や、わりすすみのある計算方法を考えるときの基礎・基本となると考える。